

北っ子 敷島北小学校だより

令和7年3月18日 文責 学校長 増坪広夫

卒業と進級に向けて

6年生の教室にある日めくりカレンダーも、いよいよ「卒業まであと1日」を示すことになりました。3月19日（火）には29名の子供たちが敷島北小学校の卒業生として巣立っていきます。



卒業式の練習では、その多くが呼びかけと歌に費やされてきたことだと思います。「歩く」「座る」「お辞儀をする」「背筋を伸ばす」などといった基本的な動作の練習もたくさん重ねてきました。普段当たり前のようにしている「歩く」という動作もあらためて行ってみるとなかなか難しいようです。さすがに右腕と右足が同時に出る子はいなかったようですが、意識すればするほどその動きがぎこちなくなってしまうことが多いようでした。当日は保護

者の皆様をはじめ多くの方からの熱い視線を受けることと思いますが、出来る限り堂々と自然な振る舞いができるようにさせたいものです。

私が6年生の担任だった頃、呼びかけについては「短くても自分の台詞なら誰にも負けない」と思えるぐらいにまで高めて欲しいと思って指導してきました。きっと日を追うごとに担任から出す注文も増えてきたと思いますが、6年間で締めくくる卒業式こそ最後の授業であり「最高の授業」にしたという想いがそうさせているのだと思います。そして「この子の全力はこんなものではないはずだ」「まだまだもっとやれはできる」という期待もそこにはあるのだと思います。



呼びかけでは「ただ単に大きな声を出せばよい」というわけではありませんが「恥ずかしさ」という自分自身の殻を打ち破って新しい自分が発見できることを期待しています。ただ主役はあくまでも子供達であり、その子自身の心の内に「自分を変えよう」といった気持ちがわかない限りはどうすることもできません。結局のところ「自分を変えていけるのは自分だけでしかない」からです。



素晴らしい卒業式にするために「自分自身ができること」「集団として出来ること」を、もう一度しっかりと意識してほしいと思います。

卒業式の前半は儀式的な色合いが濃い内容になっています。その中でも一番の注目はなんといっても卒業証書授与の場面となります。ステージへ歩み出て担任の呼名に返事をして、学校長から証書を受け取り、再び自分の席

に着くまでのわずかな時間、この晴れの舞台での主人公となるわけです。

担任も、これまでテストや出席など様々な場面でクラスの子供達の名前を呼んできたわけですが、卒業式では今までで一番の最高の呼名をするように努めることでしょう。子供達の最高の返事を期待します。

明日がすべての子供にとって良き日となりますように、卒業生や保護者の皆様には心からお祝いを申し上げますとともに、子供たちへの指導・支援に関わってくださった多くの方々に感謝申し上げます。



卒業は新たなスタートでもあります。卒業生が自分の夢に向かって、一步一步、努力を重ね、幾多の壁を乗り越え、自分の夢を実現していくことを心から期待しています。

また残された在校生にとっては3月25日(月)が1年を締めくくる大切な修了式となります。この1年を振り返り、自分の成長に自信を持つとともに、次の学年に向けてしっかりと目標を持たせたいと思っています。

新学年×新学期に向けて

子供たちの頑張り、終了式に手渡す「あゆみ」を御覧になってください。ただ、評定や所見だけでは到底そのすべてを伝えきれものではありません。それでも子供たちにとっては大きな成長を遂げた一年であったはず。この「あゆみ」は、その扱い方によっては毒にも薬にもなります。

ぜひ「やればできる」というお子さんの素晴らしいところを確かめる材料の一つとして受け止めていただけると幸いです。

努力は定期預金。忘れた頃に利息が付いて返ってくる。

怠慢はクレジットカード。忘れた頃にツケが回ってくる。

スポーツの世界では、これまでなかなか自分の限界を超えることができなかったのに、ある日突然記録が伸びることがあるそうです。その原因はよく分からないと言われていますが、おそらく何ヶ月間にわたって努力してきた結果が、忘れた頃に出るのではないのでしょうか。こつこつ積み重ねた努力がいつの日か大きな力へと変わるところが銀行の定期預金に似ています。しかし、サボってばかりいるとそれは逆に大きな失敗につながってしまうこともあるかもしれません。

修了式が過ぎると春休みになります。4月から良いスタートがきれるように、先の先を見据えて準備を進めてほしいです。努力という貯金、たくさん貯めてくれることを期待しています。

想像×創造 想うことは実現する

人間は長い歴史の中で「想像」したことを「創造」してきました。

「アポロ」という歌の歌詞に「僕らの生まれてくるずっとずっと前にはもうアポロ11号は月に行ったっていうのに」というフレーズがありますが「人が月面を歩く」「宇宙ステーションで生活する」など、大昔ではとても考えられなかったことが今は実現しています。

今年注目の「大阪万博」ですが、1970年に日本で開催されたときには最先端技術として発表された「携帯電話」や「テレビ通話」は、今ではスマホなどで「当たり前」のように実現できてしまっています。



この新しいものを想像する原動力となるものが夢や憧れであり、それが人を進歩させ「不可能」と思えることを「可能」にしてきたのだと思います。子供たちには、自分自身の人生について「こんな夢を叶えたい」「こういう人になりたい」と「想像したことを創造できる人」になってほしいです。